



Russian project takes off

ロシアプロジェクト始動

—英ハートランドファームの試み—

英ハートランドファーム社がロシアでの計画を立ち上げてから3年、計画は着実に進行している。現在、ペンザ地域の栽培面積は1万haを超えている。また、さらに面積の拡大も計画している。ハートランド社の社長、コリン・ヒンクレイ氏がその計画を語った。

メイドバイ“UK”

イギリスを本拠地とするハートランドファーム社は、数年間にわたるデモンストレーション農場を試行した後、ロシアに100%出資の会社をスタートさせた。

場所は中央ロシアのペンザ（訳者注…モスクワの東650kmの都市）で、肥沃な黒土地帯。同社は、豊かなこの土地を利用した農産物の生産と、ロシア市場にその農産物を販売することを試みている。しかし当初の計画における同社の役割は、ヨーロッパの農家がこの土地で独自の農業システムを整えられるよう、設備と土地を用意し援助するというものだった。

しかし、国内情勢の変化や急速な計画拡張の必要性から、現在は、ハ

ートランドファーム社主導でこの計画が進められている。同社が49年リースで確保した1万haの圃場で活躍するのは、ロシア製の部品を装備したAGCO社の高馬力マッセイファーガソントラクタやヨーロッパ製のカルチベータ。

圃場の多くは、ソビエト時代の共同農業システムの崩壊による低迷のため、ここ数年耕うんされておらず、最初の難関は、非常に厄介な広葉雑草の処理だった。カウチグラス（天然の植物でサプリメントなどに用いられる）はこの地方では貴重な植物であるが、この場合は邪魔なだけだ。対応策として、グリホサートタイプの除草剤が効果的だった。

ミニマムティレッジ

この農場でとれた農産物は、醸造酒、パン、砂糖の製造に大量の原料を回しており、ロシアの市場で確かなウエイトを持ち始めている。それを証明するように、同社の農産物は、生産前にすでに取引が決まっているものばかりだ。

ハートランドファーム社では、機械による踏圧と機械の効率利用、および省燃費を重視したミニマムティレッジ（最小耕うん）方式が採用されている。それが確実な成果を生む

のも、豊富に有機質を含んだこの土壌のポテンシャルに支えられていると言えるだろう。

耕うんにおけるもっとも大きい作業機は、「チャレンジャーMT865（500馬力）」と作業幅12mのコンダスキルド社製のディスクプラウのマットニング。しかし、主力は幅6mのディスクプラウとサブソイラを引く「MF8280（288馬力）」だ。耕深は土壌条件によって異なるものの通常は20cm。この条件で作業するため、作業幅6mのマッセイファーガソン製ディスクプラウを、1時間で5ha作業させることができて

いる。現在同社は、平均150〜200haの圃場面積を、50haごとの交代勤務で運営している。

天候が追い風に

最近ハートランドファーム社に、フェーデルシユタット社製の播種機2台が到着した。作業幅6mの固定爪タイプと8mのディスクタイプだ。

さらに「MF8220（160馬力）」に最小耕うんと精密播種をさせるため、効率的な作業が可能な作業幅4mの現地メーカー製カルチベータ「KPE」を千500ポンドで購入



2台の中古フェーデルシュタット社製播種機が、ペリンスキーのハートランドファーム社に到着。1台は作業幅8mの固定爪のタイプで、もう1台は作業幅6mのディスクタイプ。固定爪タイプは、クローラタイプの「チャレンジャーMT865」で、ディスクタイプはダブルタイヤを装着した「MF8280」でけん引する。

した。
この記事が書かれた2005年6月末、過去数カ月になにが起こったかを見ると、春が遅かったことが作物の生育にプラスであったようだ。ハートランドファーム社は、2千500haの小麦、大麦、ヒマワリ、大豆、ビートを30日間で播種した。やや雨不足の感はあるものの、これらすべての作物は順調に生育している。

続く長い春は、フェーデルシュタット製播種機に有利に働いた。コーラタや鎮圧輪が破損したが、中古機であるため想定の内であった。



2台のJCBテレスコピックローダが、種子や肥料のハンドリングに用いられる。



社長のコリン・ヒンクレイ氏が、スタッフに作業機のシステムを説明する。

大きな問題は、鎮圧輪への土の付着やスクレーパの調整であった。
1トバグに入った種子は、JCB社のテレスコピックローダでハンドリングするが、大圃場とサイズが

ハートランドファーム機械一覧

トラクタ

- ・AGCO「チャレンジャーMT865(550馬力)」1台
- ・「MF8280(280馬力)」3台
- ・「MF8220(160馬力)」3台

カルチベータ

- ・コングスキルデ製ディスクブラウ(12m)
- ・マッセイファーガソンディスクブラウ(6m)2台
- ・マッセイファーガソンアラミックススタブルカルチベータ(6m)1台
- ・播種床カルチ(6m)2台
- ・マッセイファーガソンサブソイラ(4m、6m)3台
- ・ロシア製スタブルカルチベータ(4m)3台

播種機

- ・フェーデルシュタット(8m、固定爪タイプ)1台
- ・フェーデルシュタット(6m、ディスクタイプ)2台
- ・コングスキルデ製精密播種機(12条)3台

散布装置

- ・ナイトスプレーヤ(3000ℓ搭載、24m)1台
- ・「Ag-Chem BigA」スプレーヤ(10t・2300ℓ搭載)1台
- ・アマゾン肥料散布機2台

コンバイン

- ・「MF7276」(6.5m)2台

その他

- ・JCBテレハンドラ2台
- ・幅スペアヘッドタッパ(4.5m)
- ・7000ℓ給油車2台

小さいホップの組み合わせは、作業中の補給には不向きであった。これは、秋の播種前までに改善しなければならぬ案件である。
ペンザでは5月の末に20〜30℃まで温度が上がるため、作物の生長は非常に早い、ほとんどの作物が播種後4〜6日で芽を出す。播種量は、穀類で200kg/ha。
播種が終わると、トラクタの多くは8月末に始まる秋播きをする圃場の耕うんに戻る。
土地の再生利用に関しては、チャレンジャーや12m幅のディスクブラウ

ウが威力を発揮し、1日200haの作業をこなす。すべての作業機の平均、1時間10haの能率で考えると、燃料消費量は毎時70ℓと少なく、現地価格でも1haあたり、1・8ポンドである。
ハートランドファーム計画は、今後も栽培面積を拡張し成長し続けるだろう。最近、次の地方事務所開設し、穀物貯蔵と機械保守のための土地と店舗を購入した。
今回の報告は、今回播かれた作物の豊作の報告になるはずだ。



肥沃な土壌を、「MF8280」とアラミックスカルチベータの組み合わせで3台の播種機に先だって整地。